

平成5年 夏の風水害(鹿児島)と透析

牧角仙 丞

平成5年の春から夏にかけて日本全国気候不順であり、冷夏のため米の大凶作が報道される昨今であるが、とりわけ鹿児島は未曾有の記録的な風水害の連続であった。

特に8月6日の局地的な集中豪雨は、鹿児島市とその周辺に甚大な被害をもたらし、9月3日には戦後最大級の台風13号が鹿児島県南部に上陸し、縦断していった。県内各地の火山灰地帯におおわれた山谷は、長雨に地盤のゆるんだところへ集中豪雨に見舞われ、軟弱地盤は一気に崩れ落ち、河川をふさぎ、あふれさせていった。江戸時代より市民に親しまれて来た、市中心部を流れる甲突川の五大石橋も新上橋、武之橋の2つを流失してしまった。

8月6日午後4時から8時までの降雨量は170mm以上で、この日の雨量は259mmに達していたとのことである。しかも7月の雨量は1054.5mmで、観測史上第1位であり、例年の約3倍を越していた。

この局地的集中豪雨により、鹿児島市の大半は泥水に埋まり、周辺地区の崖崩れにより高速道路は至るところで閉鎖され、又国道3号線及び国道10号線と、そばを走るJR日豊本線は想像を絶する崖崩れによる土砂量のため、列車及び車輛の埋没のため多くの犠牲者を出してしまった。

豪雨並びに台風によって、119人という尊い人命を失い、県内各市郡医師会での被害件数も279件に及び、医療機関の推定被災実額は36億円にも達するという。

鹿児島市内の中心で鹿児島本線の発着地である西駅前であり、しかも市中心部を走るナポリ通りに面する県医師会館も地下室は勿論、一階部門も約1.5米も水没して電気通信部門、更には医療情報システムの要であったホスト・コンピュータを失うことになった。現在、電気部門の復旧がおくれ、3、4階の大講堂が使用不能となったままである。

透析医療機関も多くの被害をうけ、とくに鹿児島市内の医療機関は、浸水域は機器の直接水没という被害は勿論、市の中心を流れる甲突川の氾濫により、川上の浄水場は濁流の冠水のため断水を来たし、長期の停電、又交通・通信網の断絶により更に手痛い打撃をうけることになった。

県内透析医療機関51箇所のうち、とくに鹿児島市内の被災透析医療機関の調査を翌8月7日早朝から開始した。水道・停電によるもの、又交通手段のないもの等々に対する応急処置が迫られており、幸い小生が県医師会副会長の席にあり、県医師会事務局の力を借り、断水については県防災消防課に至急連絡をとり、透析医療機関へ優先的にタンクローリー車による給水方を依頼した。停電についても優先的に修理回復方を依頼した。交通途絶によるものには、近隣透析医療機関を利用して戴くこととした。鹿児島市より約60km離れている私のところにも2箇所の医療機関より依頼をうけ、臨時透析を行った。透析医療機関としての平常の連携がいかに大事であるか痛切に感じた。

日本透析医会初め、各地の透析医会の先生方からも慰問のお電話を戴いた。

改めて御礼を申し上げたい。

災害の後片づけが一段落したと思われる10月初、透析医療機関に対し別表の如きアンケート調査を行ってみた。

被災医療機関は75%に及び、停電・断水・通信等がその最たるものであった。とくに今回は、鹿児島市浄水場の損害により断水が長期にわたり、自家用揚水設備のないところは水確保に苦勞をされた様である。

又、通信・連絡手段の確保が最も今後考慮されねばならない点と思われます。今後の対応策として考えていかねばならない点を列挙しますと、

*通信・連絡手段の確保；電話回線は全く駄目になってくる。最終的には警察無線をお願いするしかないと思う。

*自家発電装置は矢張り必要であるが、長期にわたる場合、燃料補給をどうするか。

*自家用井水の設置も必要であろう。

*患者カード(患者情報)の整備も今後の課題となってくる。

*交通途絶のときの対応策。

*病院設計上、地域的な風水害に対する対応策(貯水槽・機械室・電気室等の場所の設定)

*記録を残すため、写真機(使い捨てカメラ)・テープレコーダーを救急箱の中に。

*透析医療機関の連携が平常から必須である。

以上、平成5年度夏の風水害について御報告致します。

平成5年11月

平成5年豪雨・台風による透析施設の被災状況
(アンケート調査による)

アンケート送付 51件 返送 40件

回収率 78%

問1 今回の災害にて、支障を受けられた部門は？

被災(有) 30(75%) (無) 10(25%)

◎被災の部門 (重複回答を含む)

(イ)電気(停電) 20

(ロ)水(断水) 15

(ハ)浸水(建物・器機) 5

(ニ)通信(電話・FAX) 13

(ホ)その他(建物・器物損壊等) 7

問2 今後の災害対策上、必要と思われる事項について記入して下さい。

解答(有) 26(65%) (無) 14(35%)

◎災害対策の必要事項の内訳(重複解答を含む)

①通信・連絡手段の確保 10

②自家発電装置の設置 8

③患者カード(患者情報) 7

④貯水タンクの設置 6

⑤交通手段の確保(患者通院) 4

⑥他の防災設備 2

⑦災害復旧対策(公的機関への) 2

⑧その他 3

鹿児島市詳図

鹿児島市 計48人(1人)

※()内はうち行方不明者





